

和音



京都大原記念病院グループ

KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK

No.254

「和音」編集室

京都大原記念病院グループ

〒601-1246

京都市左京区大原井出町

164番地

TEL (075) 744-3160

FAX (075) 744-3161

Mail kyotoohara-hp@kyotoohara.gr.jp

<https://www.kyotoohara.or.jp>

2020年

11月

NOVEMBER

その人の生活世界に入り込む大切さ

大原での実習 看護の原点に

京都大原記念病院グループでは毎年、京都第二赤十字(第二日赤)看護専門学校の学生を実習生として受け入れています。今年は第一期実習生として大原で学んだ戸川葉里子さんが、同校の引率教師として再び実習に参加されています。「和音」誌では戸川教師に大原での実習を振り返っていただきました。

私は2011年、京都大原記念グループで本校の実習受け入れをしていただいた、初年度の学生でした。

当時は介護老人保健施設での12日間の実習で、受け持ちだけでなく、自分達で考えた七夕劇や押し花作りなどのレクリエーションを通して、大勢のご利用者と関わらせてもらいました。今でも鮮明に覚えている程、思い出深い実習です。

私はおおはら雅の郷で、絵が大好きな100歳の女性(以下①さん)の受け持ちをさせていただきました。ご自身でバギーを使って歩行され、排泄や入浴時に軽度援助が必要な方でした。認知症が進行しており、コミュニケーションが難しく、なかなか本人の思いやニーズをつかめず、関

京都第一赤十字看護専門学校

戸川教師が回顧



京都大原児玉山荘にて

紅葉(もみじ) 狩りの獲物は綾錦



厳しい暑さも和らぎ、過ごしやすい秋。様々な楽しみの中に、美しい色合いで目を楽しませてくれる「紅葉狩り」があります。「狩る」といっても「ぶどう狩り」や「きのこ狩り」と違い、枝葉を切ったりはしません。「紅葉狩り」とは、色づいた葉を観賞することです。京都大原記念病院の周りでは、11月には紅葉で毎年皆様に狩りを楽しんでいただいています。(渉外 榎並宏之)

入職半年 成長の一歩

学卒新人 それぞれの思い

京都大原記念病院グループに今春59人の学卒職員が入職。それぞれの職場に配属され、貴重な戦力として患者様、ご利用者のため励んでいます。「和

音」誌ではこのうち4人に入職から半年たった思いを寄稿していただきました。

患者様の言葉、力に

この半年は本当に早かったです。業務把握に躍起になっていることや初めての社会人としての仕事で緊張しているということを加味しても、嵐のように過ぎていったように感じます。

その早かった時期を振り返って特に思ったことは二つです。一つは「報連相は大切」、一つは「患者様からの言葉は力になる」です。

「報連相は大切」というのは当たり前のことですが、何か問題が起きた際に新人である自身が取り掛かった場合、ミスや重大な過失につながるかもしれません。先輩・上司に助けを求めるのが難なく解決できることが多いです。私は大きな問題ほど先輩・上司に相談することを、心掛けています。それは自身を守ることに、ひいては患者様の安全につながると考える



京都大原記念病院

作業療法士 山内勇貴

からです。

「患者様からの言葉は力になる」これは文字通りです。働いて間もない自分のリハビリ、至らない点が多いにも関わらずお礼や労りの言葉をかけてくださる方がいます。そんな時、本当にうれしい気持ちになります。「今より頑張らないと」と、明日のエネルギーになります。働いていてよかったですなと思う瞬間です。

報連相、確認の徹底

入職当初は緊張の毎日でしたが、先輩方が気軽に声をかけてくださるおかげで、職場にも慣れてきました。

日々の業務での学びは、報連相・確認の徹底です。私の勤務するA棟では、患者様の生体反応の変化や検査・処置が多く、私達の観察や判定した値で治療内容が変わることもあります。さらに、看護師は医師からの指示を受け、多重課題の中で医療行

為を実施していきます。患者様に不利益を起こさないために最も重要だと学んだことは、報連相と確認の徹底です。

与薬をする場面でも、患者様や日付、処方内容と現物の確認を徹底しています。また、業務的に動くのではなく、それが何の薬でなぜその薬が処方されているのか、内服した後の状態はどうかと常に考えながら観察するようにしています。



京都大原記念病院

看護師 杉政秀樹

また、優先順位を考え、事実や自分の意見を先輩方に報連相し、疑問を早期に解決していくことが重要だと学び、実施しています。

半年後には新人看護師が入職し、自分が先輩の立場になります。これから業務の中でもわからないことをそのままにせず、報連相・確認を徹底し、さらに学びを深めていきたいと考えます。

人の関係、難しさ

入職する前から患者様との関係や書類業務など、自分にできるのかと不安に思うことが多くありました。

患者様とコミュニケーションをとることや、実際に評価、治療することは、学校での勉強とは違い、人との関係性を築くという点でとても難しいと感じました。

そして、書類業務がとても多いことに驚きました。書類を作成する機会が増え、経験不足から先輩に助けていただき、な

んとか処理することができます。先輩への尊敬の気持ちが大きくなりました。さらに、先輩方から評価やアプローチ方法を教えていただき、学校ではあまり学ぶことができなかつた現場での考え方について、少しですが視野が広がってきたように思います。

今年はコロナの影響でカンファレンスの参加も思うようにできない状況で、数年後の自分が先輩方のようになれるかと



京都近衛リハビリ
テーション病院

理学療法士 杉浦ありさ

不安に思うことがあります。しかし、患者様からはみんな同じ理学療法士として見られているため、“なれるのか”ではなく“ならないといけない”と考えるようになりました。そのためには経験を積むこと、根拠に基づいた医療を提供できる知識などが必要だと感じました。

京都という慣れない環境でもありますが、社会人としての責任感を強く持ってこれからも業務に臨んでいきます。

自ら提案、心掛ける

まだ不安がいっぱいです、中でも夜勤業務が不安です。8月下旬に初めての夜勤を経験しましたが、先輩が一人一緒にいてくださいました。その日は業務の流れを学び、先輩の指示のもと業務をこなし、手に負えない際は助けていただきながら終えることができました。

今後一人で夜勤するとなれば、まだまだ知識と技術に欠けると痛感しました。しかし就寝介助を行っている際に、ある

ご利用者から「朝まで頑張りや」とお言葉をかけていただき、期待されていることにやりがいを感じました。

入職した頃は日中業務でも自分が何を行うべきなのか分からず、先輩から指示を待っている状態でした。また、業務に対しても自信がなく受け身になっていました。

そこで先輩と、自分の業務の振り返りを行いました。勤務開始から終わりまで



大原ホーム

介護職 姫路昂史

自分が何を行ったか、他の職員は何を行っているか、などを挙げ業務フローを作成していただきました。それにより自分が何をするべきかを明確にできました。今はただ指示された業務だけでなく、自分が行うべきケアやその他の業務の選択肢を持ち、当日のフロアリーダーに自分から提案するように心掛けています。ケアに対する知識、技術はまだ十分ではありませんが前向きに頑張っていきたいです。

コスモス開花

博寿苑横
自家菜園

京都大原記念病院グループは、博寿苑北側の自家菜園に今年もコスモス園を造りました。白、ピンク、赤紫などの花が咲き誇り、見ごろを迎えています。

8月中旬にグループ職員が菜園中央部分の約150平方メートルに、4キロの種をまきました。今のところ台風被害もなく11月いっぱい楽しめそうです。

菜園南側にはサルビアが真っ赤に色づいており、こちらは11月中旬まで大丈夫のことです。



真っ赤に色づいたサルビア



今年も色とりどりの花をつけたコスモス園

援助する側は黒子のような存在

一人一人の人生 知ることが尊厳

（1面から続く）

人の生活に入らせてもらって、できなくなつた動作を手助けしたり、できるように環境を整えたりする黒子の様な存在だと私は思う。だからこそ、その人の背景など、その人その人の生活世界をしっかり知ろうとすることが、生活援助には大切なんだよね」と言わわれました。

私はその言葉に、その人の背景を知るうとせず、ただ自分が援助をすることばかりに捉われていたことに気づきました。生活を支える援助の本当の意味を学ばせてもらいました。

就職し、私は脳神経外科に配属になりました。脳外科の患者さんは、麻痺など何ら

かの障害を持ちながら元の生活に戻って行かなければならぬ人がほとんどです。私はこれまでずっと、生活者として対象者を捉える視点を大切にしながら患者さんと向き合ってきました。看護に行き詰まつたり、自身の看護観を見直す機会があるといつも、①さんとの関わりを通して学んだ指導者の言葉を思い出します。「その人の生活世界に入り込む」私の看護の原点がそこにあるのです。

今年度より教員として老年看護学の担当となり、ご縁あって貴施設で実習指導をさせていただくこととなりました。学生には、対象者の生活を感じてもらい、一人一人の尊厳を大切にし、生活者として捉える

視点を学んで欲しいと思っています。そして、私の様に自身の看護の原点となるような、思い出に残る実習体験をして欲しいと考えています。私も再びここで教員としての原点となる学びを追究していきたいと思います。学生共々、ご指導よろしくお願い致します。

病棟と老健で毎年実習 第二赤十字看護専門学校

京都大原記念病院グループでは2011年から毎年、京都第二赤十字看護専門学校の老年学講座のための実習を受け入れています。病院の他に博寿苑、おおはら雅の郷の二つの介護老人保健施設（老健）でも実習を行うのが特徴です。「高齢者のリアルな生活を知ることができた」と例年好評を博しています。

実習は5月末から10月末までの春季と秋季に、今年は約40人の学生が班に分かれて病棟と老健各1週間ずつ行います。今年はコロナ禍のためご利用者への接触を控え、病棟や施設内の見学に代えるなどしています。

初期消火もう大丈夫 新人職員が消火器訓練

いざという場合に備え、消火器を正しく使い初期消火につなげられるように、9月7日から23日まで新人職員が2~3人交代で、博寿苑防災センターで操作訓練を行った。



止になり、訓練の規模を縮小した。

講師は楫雅博・安全対策室長が務めた。「消火器の使い方は難しくありませんが、ピンを抜いてレバーを握ると、中の消火剤は15秒間しか出ません。操作を誤って火に届かないまま出尽くしてしまうことのないよう、一度練習し慣れておいてください」と説明。「やけどしないよう、最初は5㍍ほど離れて消火してください」などの指導を受けながら、新人職員は水を充てんした消火器を使い、火に見立てたコーンに放水していた。



ご利用者、大笑い 大原ホームDSで敬老会

長年社会や家族に恩返してきた高齢者を少しでもねぎらおうと、大原ホーム老人デイサービスセンターでは敬老の日の9月21日に、「敬老会」を行いました。

感謝の気持ちや尊敬の気持ちをどう伝え

ようかと考えた結果、「いつまでも元気に笑っていてほしい」という思いで、仮装した職員によるマジックやラインダンスで腹の底から笑っていただきました。

帰りにとびっきり笑顔の写真付きお祝いカードを贈ったところ、涙を流して喜ぶご利用者もおられました。大原ホームデイサービスは今後も笑顔多き事業所作りをしていきたいと考えています。（大原ホーム 坂田善基）

京都大原記念病院グループウェブサイト
公式Facebookのご案内

グループの取り組みなど日々、更新中!
自然災害等により何らかの影響が生じた場合は
こちらで情報発信します。ぜひこちらもご覧ください!



ウェブサイト



Facebook